

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	肝内胆管癌組織における免疫抑制分子の発現解析と臨床的意義の検討
	研究目的	肝内胆管癌は切除可能例に対する標準治療は根治的手術であるが、約半数の症例では術後に再発する予後不良の癌腫である。近年、がん細胞や腫瘍浸潤免疫細胞に発現するPD-1分子、PD-L1分子の発現パターンにより抗PD-1抗体の治療効果が予測できると報告され、患者選別のバイオマーカーとして注目されている。ただし、PD-1分子、PD-L1分子のみならず様々な免疫抑制分子群(TIM-3, BTLA, PD-L2, B7-H3, B7-H4)の発現ががん局所での免疫抑制環境が形成に関与していると報告され、免疫抑制分子群の発現パターンの網羅的かつ詳細な解析が“個別化免疫治療”の発展には不可欠である。しかしながら、肝内胆管癌のがん組織における免疫抑制分子群の発現を網羅的に解析した報告は少なく、臨床病理学的因子との関連も明らかではない。本研究では、切除された肝内胆管癌組織を用いて、がん細胞や腫瘍浸潤免疫細胞に発現する免疫抑制分子群の発現パターンを免疫組織染色法により解析し、その臨床的意義を明らかとする予定である。
	研究対象者	西暦2007年1月1日～2017年12月31日の10年間に神奈川県立がんセンター消化器外科で切除された肝内胆管癌症例
	研究期間	西暦2018年9月7日～西暦2020年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	消化器外科 医長 山本直人
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科、消化器内科、臨床研究所
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし